

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

次期社長選「カギは労組対策」

今年度末にも社長交代か

JR東日本の社長任期は通例6年です。深澤社長は就任6年目で、今年度末にも交代すると言われています。次期社長候補の筆頭が喜勢陽一副社長です。その理由は「労働組合対策の功労者だから」です。

業務融合・職名廃止も「組合対策」

JR東の労務政策が決定的に変わったのは18年2月に東労組に対して「労使共同宣言失効」を通告してからです。そこから会社は管理職を中心にした露骨な労組脱退工作を行い徹底して組合を解体しようとしてきました。

その後、どんな施策にも声を上げられないようにするために、「社友会」に労働者を加入させていきました。

この過程で喜勢副社長は経営陣に東労組との決別を強く進言し、労使共同宣言失効への流れを作ったとされています。



業務融合化や職名廃止を主導したのも、喜勢副社長です。その目的も「組合運動につながることを防いだ」

次期社長候補の筆頭といわれる喜勢陽一副社長。22年の喜勢副社長主催の懇親会では社員が救急搬送される事態に。

め」だったと語られています。

「紹興酒事件」でも労組対策優先

喜勢副社長は労務対策で出世してきた人物です。一方、コロナ禍中の22年6月には自身が主催の懇親会で紹興酒を30本以上あげ、救急車2台が出動し、参加した社員が救急搬送される事態となりました。

喜勢副社長は「乾杯とは杯を乾かすこと」と発言し、参加した社員は「勧められるがまま飲まざるを得なかった」と報じられました。しかし、JR東日本は何と「飲酒の強要はなかった」と発表しました。会社はこうした問題を起こした人物をかばってまで、「労働組合対策」を優先しています。

職場に闘う労働組合を

会社がここまで労働組合対策にこだわるのは、そこに会社の攻撃を打ち破り現状を変える力があるからです。

そごう・西武労組のストは大きな支持と注目を集めました。世界中で大規模なストが相次ぎ、米・財務省は「労組が賃金を10〜15%押し上げる」との見通しを示しています。

日々、列車を動かし、鉄道の安全を守っているのは現場労働者です。一人ひとりの団結の力にこそ、会社の攻撃を阻止する力があります。職場に闘う労働組合を取り戻そう。